

令和6年度 国語科 授業改善推進プラン

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・漢字の小テストを小学生の範囲から網羅的に取り組むことで漢字の書き取りの基礎が身に付いた。
- ・暗誦、ビブリオバトル、スピーチ、プレゼンなど機会を多く設けることで、人前で表現力豊かに話す力が身に付いた。

(2) 課題

- ・話し合いの機会を多く設けたが、グループの中での合意形成の力を育むことに課題が残った。
- ・振り返りの機会を多く設けたが、既習事項と結びつけながら考える機会を提供することに課題が残った。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	正答率（基礎・活用）は概ね目標値を大きく上回った。		
第2学年	昨年度同様、正答率（基礎・活用）は概ね目標値を大きく上回った。	正答率（基礎・活用）は全て目標値を大きく上回った。 (第1学年時)	
第3学年	昨年度同様、正答率（基礎・活用）は全て目標値を大きく上回った。	正答率（基礎・活用）は全て目標値を概ね上回った。 (第2学年時)	正答率（基礎・活用）は概ね目標値を上回った。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1問だけ目標値をやや下回ったものがあったが、それ以外は同等、または目標値を上回っている。特に文法・語句に関する問題は目標を大きく上回った。	ほとんどの問題で目標値を上回った。特に指定された長さで文章を書く問題は目標を大きく上回った。	すべての問題において、目標値を大きく上回った。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1問だけ目標値をやや下回ったものがあったが、それ以外は同等またほとんどが目標値を上回った。特に故事成語に関する問題は目標を大きく上回った。	ほとんどの問題で目標値を上回った。特に文学的文章に関する問題は目標を大きく上回った。	1問を除いて、目標値を上回った。特に記述問題において全国値を大きく上回った。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
一問を除いて目標値を大きく上回った。特に文章全体と部分の関係に注意しながら内容を捉える問題では大きく上回った。	すべての問題で目標値を大きく上回った。特に文章の構成や論理の展開について考える問題では目標を大きく上回った。	すべての問題において、目標値を大きく上回った。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
帯学習により漢字の知識・語彙定着を図る。文法問題では、問題演習の時間を確保することで定着を図っていく。	毎回の授業の中で、必ず他者と意見交流を図る時間を設け、個々の考えの深まりを目指す。また、文章読解後に、自分の考えを明確にして文章にする練習を繰り返し行い、書く力を育む。	探求学習を通して、自ら問い合わせをして、自ら深堀りする活動を通して主体性を引き出す。 また、自分の考えをスピーチにしてまとめる機会を多く作ることで考え方を形成する力を育てる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
これまでと同様に漢字テストをこまめに行う。文法小テストによる語彙獲得にも努める。古典では暗誦や問題演習の時間を確保することで定着を図っていく。	帯活動で音読学習に取り組むことで、文章を声に出して読む機会を設ける。単元ごとに時間内に200字～400字で作文を書くことを繰り返し行い、書く力を育む。	探求学習を通して、自ら問い合わせをして、自ら深堀りする活動を通して主体性を引き出す。 また、自分の考えをスピーチにしてまとめる機会を多く作ることで考え方を形成する力を育てる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
帯学習により漢字の知識・語彙定着を図る。文法問題では、問題演習の時間を確保することで定着を図っていく。	単元ごとに時間内に200字～400字で作文を書くことを繰り返し行い、書く力を育む。スピーチや発表を通して自らの考え方を形成し、それを表現力豊かに話す力を育てる。	探求学習を通して、自ら問い合わせをして、自ら深堀りする活動を通して主体性を引き出す。 また、自分の考えをスピーチにしてまとめる機会を多く作ることで考え方を形成する力を育てる。

令和6年度 社会科 授業改善推進プラン

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ICT機器の活用により、社会科の学習について、興味・関心を高めることができた。
- ・小テストや提出物チェックを定期的に行うことで基礎・基本の定着を促すことができた。

(2) 課題

- ・授業の進度が遅くなってしまい、学習効果測定実施時に未学習分野があった。
- ・事実や単語の理解はすんでいる一方で、事実をもとに自分の意見をもち、他者に説明する力の育成が不十分である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	区平均は超えているが、目標値の3ポイント、全国平均の2ポイント程度下回っている。		
第2学年	標準値を2ポイント程度上回っている。	標準値を3ポイント程度上回っている。 (第1学年時)	
第3学年	標準値を2ポイント程度上回っている。	標準値を2.5ポイント程度上回っている。 (第2学年時)	標準値を1ポイント程度上回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値に比べて2ポイント程度下回っている。小学校特に6年生で学習する歴史的分野の正答率が低い。	目標値に比べて3ポイント程度下回っている。複数の資料を比較し、表現する問題に課題が見られる。	学習した知識を活用し、歴史的な事実を説明したり、歴史を大観したりする問題に大きな課題が見られる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値に比べて1ポイント程度下回っている。世界の諸地域の学習等、地理的分野の2学年後半に行う学習内容に課題が見られる。	目標値に比べて、6ポイント程度高い。資料読解の問題の正答率は高いが、文章で記述する問題の正答率は低い。	学習した知識を活用し、事実を説明したり、歴史を大観したりする問題に大きな課題が見られる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理的分野は目標値を大幅に上回っているが、歴史的分野は目標値を下回っている。特に明治時代の理解が不十分である。	目標値を大幅に上回っている。説明を記述する問題の正答率が低い傾向にある。	資料読解に基づき歴史的な事実を説明したり、地形図を読み取ったりする、知識を活用する問題に課題が見られる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができるよう、授業で重要語句を印象付ける。また小テストを重ね定着を図る。	資料読解の技能や着眼点を整理し指導する。資料から読み取れる事実と、既習事項から自分の意見を表現する单元を積極的に設ける。	社会科への苦手意識や非常に強く、暗記教科だととらえている生徒が多い。視覚教材等を用いながら、苦手意識を払しょくしていく。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
世界の諸地域について基礎的な知識・技能を確認する。また日本の諸地域や歴史的分野と関連付けながら、知識の復習を行い、定着を図る。	資料読解の技能や着眼点を整理し指導する。資料から読み取れる事実と、既習事項から自分の意見を表現する单元を積極的に設ける。	視覚教材等を用いながら、苦手意識を払しょくしていくとともに、生徒の話し合い活動を充実させ、日ごろから説明する力を高めていく。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
公民的分野の学習においても生徒が歴史との関連を意識できるよう授業を設計する。重要語句や問題演習の反復を通じて、知識・技能の定着を促す。	資料読解の技能や着眼点を整理し指導する。資料から読み取れる事実と、既習事項から自分の意見を表現する单元を積極的に設ける。	視覚教材等を用いながら、苦手意識を払しょくしていくとともに、生徒の話し合い活動を充実させ、日ごろから説明する力を高めていく。

令和6年度 数学科 授業改善推進プラン

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・単元テスト等の実施により、既習内容の定着をはかることができた。
- ・授業の振り返りを通して、学習内容を反芻する機会を設けられた。

(2) 課題

- ・ICTを活用する場面を設けたが、生徒の習熟度によっては活発な意見交換に至らない場面が見られた。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	全観点の平均スコアが目標値を大きく上回っている。		
第2学年	全観点の平均スコアが目標値を大きく上回っている。	全分野において、目標値を大きく上回っている。 (第1学年時)	
第3学年	全観点の平均スコアが目標値を大きく上回っている。	全観点の平均スコアが目標値を大きく上回っている。 (第2学年時)	全国の平均スコアをやや上回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を大きく上回っている。各小学校や家庭での取り組みが好結果に繋がったと分析する。また、今後この結果を継続できるよう、授業改善プランを検討する。	目標値を大きく上回っている。各小学校や家庭での取り組みが好結果に繋がったと分析する。また、今後この結果を継続できるよう、授業改善プランを検討する。	目標値を大きく上回っている。データの分析の記述問題が平均値を下回っていたので、記述に関する問題が苦手であると推測する。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を上回っている。空間図形の表面積、体積の問題、データの分析の相対度数の問題が平均値を下回っていたのでこれらの分野が苦手であると推測する。	目標値を上回っている。方程式の立式の問題が平均値を下回っていたので、立式の分野が苦手であると推測する。	目標値を上回っている。方程式の立式の問題が平均値を下回っていたので、立式の分野が苦手であると推測する。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を大きく上回っている。2元1次方程式の解の個数を答える問題の正答率が目標値と同程度となっているので、解の意味や式の理解がやや不十分であると推測する。	目標値を大きく上回っている。平行四辺形の証明の正答率が目標値を下回っているため、定理や根拠の判断方法の定着が不十分であると推測する。	目標値を大きく上回っている。平行四辺形の証明で、他の問題に比べて無解答が多いため、証明に対する苦手意識がある生徒が一定数いると推測する。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元テストなどを充実させ、知識や技能を確認する機会を増やす。	発展的な学習内容にも積極的に取り組ませ、既存の知識の活用の幅を広げさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・B ノートの活用方法を計画的に促し、自ら数学の問題に触れる機会を身につけさせる。 ・家庭学習で行えるデジタルコンテンツを適宜紹介し、授業でも活用し、他者との意見交流の機会を増やす。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
計算分野や1、2年生の復習事項の小テストを充実させ、反復して取り組める環境を整える。	発展的な学習内容にも積極的に取り組ませ、既存の知識の活用の幅を広げさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・計算プリントを効果的に活用し、自ら数学の問題に触れる機会を身につけさせる。 ・家庭学習で行えるデジタルコンテンツを適宜紹介し、授業でも活用し他者との意見交流の機会を増やす。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・型にはまった問題ばかりではなく、考え方の本質的な理解を問う場面を、授業や小テスト、定期考査を通じて意識的に設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・証明において、根拠として使えることの理解を意識した授業作りと、既習の定理の戻り学習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・証明を含め、考えや根拠を記述させるワークシートやテストを充実させる。

令和6年度 理科 授業改善推進プラン

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・繰り返しの小テストの結果、知識・技能の向上が見られた。
- ・実験を行った結果から、論理的な表現ができるようになった。
- ・I C T機器を用いて、科学への興味関心を高められた。

(2) 課題

- ・基本的な知識・技能の定着を継続する。
- ・科学的な思考力や判断力をのばす。
- ・科学的な事象・事物への興味関心を引き継ぎ高める。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	達成率は、基礎が低い一方で応用は高く、全体としては全国平均値をわずかに下回った。		
第2学年	全国平均を上回り、観点別で見ると、目標値よりも5ポイントほど上回っていた。	平均を上回ったが、知識・技能で定着していない部分があった。 (第1学年時)	
第3学年	平均を大きく上回り、2年次よりも5ポイント上昇している。思・判・表の観点が上昇した。	平均を少し上回った。1年次より若干上昇した。全観点で平均していた。(第2学年時)	平均をわずかに下回った。知識・技能の定着が十分はでなかつた。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値および全国平均値を下回った。用語を記述する問題での正答率が低く、知識の定着が不十分だといえる。	目標値を大きく上回り、全国平均値も上回った。実験の計画や、実験のねらいについての誤答が見られた。	ほぼ全国平均値と同様で、目標値を上回った。推測する問題はできていたが、比較する問題ができていなかった。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値、全国平均値を上回ったが、用語の理解が不十分な分野が見られた。	目標値、全国平均値を上回った。考察の記述を論理的に書くように取り組んだ成果であると思われる。	目標値、全国平均値を上回った。興味関心をひく導入や授業展開ができていたと思われる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を上回っている。昨年度とは、同程度であった。思考・判断・表現に比べると、低く、知識の定着が十分ではないと思われる。	目標値を大きく上回っている。昨年度より大きく上昇した。考察の記述に力を入れ、思考力の必要な問題に多く取り組んだ成果と思われる。	目標値を上回っていた。昨年度より若干上昇した。授業や実験に興味関心をもてるような発展的な内容を盛り込んだ成果と思われる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小単元ごとに小テストを実施するとともに、定期考查前の復習と定期考查後のまとめまでを通じて、既習内容を確実に定着させる。	実験をする際には、ねらいや操作の意図を丁寧に確認し、考察のみならず実験全体を通して、科学的な思考力や判断力を伸ばす。	ICT を活用し、データを比較したり、傾向を読みとったりして、自ら考えを深める活動を通して、主体的に学習に取り組む態度を養う。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期的に小テストを実施し、知識・技能を定着させる。 また、小テストの直しや補充問題を通して、さらに知識・技能の定着を図る。	実験の操作や手順の理由を考えさせ、思考力や判断力をのばす。さらに結果から論理的に考察を書き、自分の考えを表現できるようにする。	ICT 機器を活用し、興味をひく話題を提示し、生徒が関心を持って、授業に取り組めるようにする。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な学習内容や理科用語などの知識の定着が十分ではないので、学習プリントを用いて、各項目を確実に押さえるとともに、小テストなどで定着を促す。	引き続き、実験の考察などで論理的な文章の組み立てがきちんとできるように、指導していく。また、法則性を念頭に置いて、自然事象を考えるように、指導していく。	自作プリントを用いて学習内容を網羅し、習得度をあげる。また、発展的な内容を紹介したり、最新の研究についての調べ学習を行う等によって興味関心を高めていく。

令和6年度 英語科 授業改善推進プラン

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・帯活動として、会話活動や洋楽を取り入れることにより、既習事項に繰り返し触れる機会を提供することができた。また、英語学習に対する意欲に繋げることができた。
- ・定期的に単語テストを実施することにより、生徒は語彙力を高めることができた。また、生徒が自ら学習に取り組む機会を提供することができた。

(2) 課題

- ・授業内での英語によるコミュニケーションの機会を増やしたが、自分の意見を英語でアウトプットすることに課題が残った。
- ・自己の学習状況を振り返る機会を多く提供したが、学習の改善に繋げることに課題が残った。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	正答率（基礎・活用）は全て目標値を大きく上回った。		
第2学年	昨年度同様、正答率（基礎・活用）は全て目標値を大きく上回った。	正答率（基礎・活用）は全て目標値を大きく上回った。 (第1学年時)	
第3学年	昨年度同様、正答率（基礎・活用）は全て目標値を大きく上回った。	正答率（基礎・活用）は全て目標値を大きく上回った。 (第2学年時)	正答率（基礎・活用）は概ね目標値を上回った。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ほとんど全ての問題において5ポイント以上上回った。特に単語や表現の意味理解において非常に正答率が高かった。	ほとんど全て5ポイント以上上回った。特に会話全体の理解において非常に有意な差が見られた。	英作文の問題において、ほとんどの項目の正答率が目標値を上回っているが、楽しめることを表す英作文に課題が見られた。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1問だけ目標値をやや下回ったものがあったが、それ以外は全て目標値を大きく上回った。特に対話文の内容読み取りに関しては完璧に近い数値であった。	2問は目標値とほぼ同値、1問はやや下回ったが、それ以外は目標値を上回った。20ポイント以上上回ったものも4問あった。	全て5ポイント以上上回った。記述式（英作文）において全国値の倍以上の正答率であった。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全て5ポイント以上上回った。特に語形・語法・語彙の知識・理解において正答率が高かった。	全て5ポイント以上上回った。記述式（英作文）において全国値の倍以上の正答率であった。	全て5ポイント以上上回っており、かつ、全国値の倍以上の正答率であった。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生徒が受信・発信できる言葉をさらに増やすため、単語テストを中心とした語彙指導に努める。特に身近なものや日常でよく使用される語彙から身につけさせる。	帯活動として行っているQ&Aの活動を通して、自分から英語を発信する機会を増やす。またALTを活用した会話テストや英作文テストを取り入れる。	生徒が自発的に学習する仕組みづくりとして、単語テストの練習を奨励する。また英語に興味関心をもてるよう、英語の歌や活動などを中心とした授業づくりを目指す。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
まとめた文を読み、その内容把握や代名詞の用い方・指す内容の理解に取り組む。また、これまでと同様に単語テストによる語彙獲得にも努める。	帯活動であるQ&Aやリスニング練習をとおして適切な応答を身につける。また教科書の対話文を反復練習させ、その内容（情報）を捉えられるようにする。	新出の文法事項獲得のためのコミュニケーション活動や練習問題後に自己評価をさせる。帯活動で英語の歌に取り組み、より一層興味をもたせる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
既習事項に繰り返し触れる機会を提供し、復習に取り組む。特に、文の語順を理解し、場面に応じて相手に伝わるように正確に英文を書く練習をする。	リスニングの機会を増やし、必要な情報や要点を正確に捉える練習をする。また、引き続きさまざまな英文を読む機会を提供し、必要な情報を早く正確に捉えられるよう取り組む。	英語によるコミュニケーションに主体的に取り組めるよう、英語で自己表現する機会を多く提供する。また、引き続き自己の学習状況を振り返らせ、見通しを持った学習を心がけさせる。

令和6年度 音楽科 授業改善推進プラン

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・「A表現（歌唱）」の学習において、積極的に歌唱表現しようとする生徒が増えた。
- ・「A表現（器楽）」の学習において、身につけるべき基本的な奏法を理解し、表現工夫して演奏する生徒が増えた。
- ・「B鑑賞」の学習において、音楽的な特徴を捉え、自分の感じたことを適切に批評しながら鑑賞できる生徒が増えた。

(2) 課題

- ・「A表現（歌唱）」の学習において、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などについてさら指導する。
- ・「A表現（創作）」の学習において、表現したいイメージをもち、構成や全体のまとまりを工夫して音楽をつくることを伸ばしていく。
- ・「B鑑賞」の学習において、曲や演奏に対する評価やその根拠を明らかにできる力を伸ばしていく。

2 大田区学習効果測定の結果分析 実施教科ではない

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【知識】読譜に必要な用語や記号などについて音楽における働きと共に指導する。</p> <p>【技能】歌唱するために必要な発声、言葉の発音、体の使い方などの技能を身につけられるよう指導する。</p>	<p>歌唱の学習において、音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受する。意見交換しながら、自分たちの歌唱表現を創意工夫する活動を行う。</p>	<p>明確に目標を設定することで、領域ごとに意欲的に取り組むことができるよう指導する。仲間と共に学習する機会を大切にし、ペアやグループでの活動を取り入れ互いにアドバイスをし合う活動を行う。</p>

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【知識】読譜に必要な用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解させ、読譜力を高める指導を行う。</p> <p>【技能】豊かな響きで歌唱するために必要な発声、言葉の発音、体の使い方などの技能を身につけられるよう指導する。</p>	<p>歌唱の学習において、音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したこと感受したこととの関わりについて考え、積極的に意見交換を行い、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫する。</p>	<p>明確に目標を設定することで、領域ごとに意欲的に取り組むことができるよう指導する。仲間と共に学習する機会を大切にし、ペアやグループでの活動を取り入れ互いにアドバイスをし合う活動を行う。ICT機器を適宜使用する。</p>

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【知識】曲想と音楽の構造の関わりについて理解し、音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりを理解できるよう指導する。</p> <p>【技能】豊かな響きで歌唱し、他の声部との関わりなどを意識して歌唱する技能を身につけるよう指導する。</p>	<p>鑑賞の学習において、音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したこと感受したこととの関わりについて考え、音楽の良さや美しさを味わって聴き、自分なりの言葉で伝える活動を行う。</p>	<p>明確に目標を設定することで、領域ごとに意欲的に取り組むことができるよう指導する。仲間と共に学習する機会を大切にし、ペアやグループでの活動を取り入れ互いにアドバイスをし合う活動を行う。ICT機器を適宜しようする。</p>

令和6年度 美術科 授業改善推進プラン

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

「表現」タブレットを活用することで、創作活動に意欲的に取り組むことができ、制作時間の確保につながることができた結果、完成度の高い作品が見られた。

「鑑賞」鑑賞の習慣がついたことで、自分なりの見方や感じ方を言葉で表すことができ、鑑賞の能力が向上した。

(2) 課題

「表現」自らで考え、構想を練る活動の際に、周りからの情報（インターネット等）に頼る傾向がある。タブレットPCを使うことが目的にならないよう、効果的な活用方法などを示す必要がある。

「鑑賞」鑑賞の仕方がパターン化しないよう、さまざまな見方・考え方を広げられるような課題を設定する必要がある。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
色彩・レタリング・ポスターカラーの使い方といった美術における基礎基本を丁寧に指導し、習得させる。用具の使い方や安全指導を徹底する。	自分なりの発想や構想を大切にさせ、考える時間をできるだけ多く設定し、アイデアスケッチの習慣をつけさせる。	持ち物の準備・話を聞く態度の指導の徹底をし、単元ごとにめあてを明確にして計画的に活動に取り組ませる。板書と電子黒板を効果的に使い分ける。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年で習得した技法を活用させ、作品制作に取り入れる。技法習得の難しいものは、練習時間を確保し、確実に身につけられるようにする。	自分のアイデアだけでなく、他の生徒の発想に触れることで、新たな発想を生み出す力を身につけさせる。	毎授業、活動の振り返りを授業カードに記録させ、単元ごとにめあてを明確にし、見通しを持ちながら活動に取り組ませる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
新しい知識や技能に加え、これまでの既習内容を活用させる。技法練習を繰り返させて、技能を確実に身につけさせて、作品の完成度の向上をめざす。	より表したいイメージに近づけられるよう、さまざまな作例を示しながら深く考えさせる時間を確保する。タブレットを効果的に活用できるようにする。	授業中の机間指導による観察や問い合わせの際に、生徒たちのイメージに沿ったアイデアを形にできるような助言をする。進捗状況を確認しながら、意欲的に活動に取り組ませる。

令和6年度 保健体育科 授業改善推進プラン

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・体育分野では、個人・チームの課題に対して考えを深め、具体的な目標や技能ポイントに向けて意欲的に授業に取り組む生徒が多くなった。
- ・互いに教えあい、認めあう機会もおおむねみられている。
- ・これまで投力が課題であったが、筋トレの導入や投力指導により全国平均と同レベルに向上した。

(2) 課題

- ・基礎体力の定着が課題である。特に、体力テストの結果では走力が全国平均より低い。
- ・苦手意識のある生徒に対しても、「苦手でも努力する」姿勢を支援していきたい。
- ・近年の感染症による制限から、運動経験が未熟であり体力の低下や日常生活での怪我が多い。特に小学校での水泳指導の減少により、泳力の低下が顕著である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	体力テストの結果より 反復横跳びの学校平均値は 全国平均よりも高いが、5 0m走は低い。		
第2学年	体力テストの結果より 握力、長座体前屈が全国平均 よりも高い傾向があった。 (第1学年時)		
第3学年	体力テストの結果より 男子の持久力が全国平均よ りも低くなつたが、男女と ともに投力は向上した。	体力テストの結果より 走力、持久力が1年次よりも向 上した。女子の投力が課題であ った。(第2学年時)	体力テストの結果より 持久力、投力が全国平均よ りも低い傾向であった。(第 1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身体能力や基礎体力に個人差があるが、記録や技能の向上に努力し、意欲的にチャレンジする生徒が多くみられる。	自分自身の工夫したこと、課題を言語化することが難しい生徒が多い。	授業のルール、集団行動、ラジオ体操、補強運動等も意欲的に行う生徒が多い。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全体的に知識的理解は高いが、運動に対する苦手意識をもっている生徒が多く、技能差が大きい。	自己の課題を把握し、解決に向けた練習を行える生徒が多い。しかし、それを言語化することが難しい生徒がいる。	保健体育に対する関心は高く、課題に対して積極的に取り組む生徒が多い。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全体的に知識的理解は高いが、運動ができる男子と運動が苦手な女子の技能差が大きい。	動きや課題を分析し、自分自身で工夫することができる生徒が多い。しかし、それを言語化することが難しい生徒が多い。	保健体育に対する関心はおおむね高いが、与えられた課題だけではなく自主的に活動する生徒は少ない。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎体力を高める取組を行う。活動の中で知識を教えるとともに技能のポイントと身に付けられるよう教材の示し方を工夫し、理解できるようにする。	ノートや学習カード、プリントを活用し、自信の記録や課題がわかるようにする。 保健分野においては自分自身や生活に結びつけて考えさせる。	授業のルール、集団行動、ラジオ体操、補強運動等の目的を伝え続け、自己の向上に意欲的に取り組めるようとする。健康、安全に留意し互いに運動する態度を育てる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の楽しさや喜びを味わい、基本的な技能を身に付けられるようする。また、運動や体力の必要性についても理解できるようにする。	ノートや学習カード、プリントを活用し、自信の記録や課題がわかるようする。その結果をふまえ、自己の課題解決に向け取り組む姿勢を大切にしていく。 保健分野においては、身边にある問題を自分事として捉え、よりよく生きていくために必要なことを考えさせる。	運動における様々な経験を通して、公正、協力、責任、参画などの意識を高められるようする。 保健分野においては、心身の健康の保持増進や明るく豊かな生活を営むために必要な態度を養う。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1・2学年で学んだことの定着を図り、さらに応用、発展できるようする。 全体の技能向上を目指し、教え合い活動を取り入れる。 様々な種目に取り組み、生涯を通じ運動に親しむ習慣、知識、技能を身につける。	ノートや学習カード、プリントを活用し、自信の記録や課題がわかるようする。特に自分自身が工夫したこと、その結果を考え課題解決を促す。 保健分野においては社会や将来を考え、よりよく生きていくために自分ができることは何かを考えさせる。	授業に集中できる環境・姿勢で全体指示を行い、授業のねらいを明確にし、協働的な学びを取り入れていく。 主体的に活動できるよう保健分野においても班やグループでの実習、学習、発表等を通し、生徒自身が積極的に活動できる場を設ける。

令和6年度 技術・家庭科 授業改善推進プラン

● 技術・家庭科における昨年度の授業改善推進プランの検証

本校の教育重点目標にある「自分で課題を見つけ課題をつくり、その課題の解決を図ろうとする生徒」に関しては、おむね満足できる。主体的・対話的な学びを通して、自発的に行動する姿勢を身につけさせたい。

また、「向上心を持って主体的に学習に取り組む生徒」に関しては、ICT環境の整備など授業形態や授業方法を工夫し、改善がみられている。

● 技術・家庭科における分析と課題

〈技術分野〉

最後まで作品を完成させ、完成度を高めるというやる気と根気を養わせたい。そのため、多少のつまずきであきらめてしまう生徒や、完成度を高める意識が乏しい生徒も多少いるので、個別の指導や班活動などを増やし、支援をしていく必要がある。

安全に対する意識や危機管理に対する意識は概ね高い。ものづくりを通して、ものを作る喜びや達成感を味わわせたいが、個別の支援を必要とする生徒もいる。

ChatGPTなどのAIが発達してきたため、それを使うための情報リテラシーを養う。

〈家庭分野〉

小学校での学習内容の定着度に差があることから、既習の内容を含めた基礎・基本の学習内容の定着を図る必要がある。定着が不十分な生徒には個別指導が必要である。また、学習活動の中で生徒が主体的に取り組めるような教材の開発、授業展開の工夫が課題である。

課題発見、課題解決する力について、実生活での経験、ふり返り活動を通しながら課題解決を図ろうとする生徒が増えている。さらに体験的・実践的な学習を多く取り入れ、自分自身だけではなく家族、家庭、地域に視野を広げ、様々な角度から物事を考えられる力を身につけさせたい。

● 技術・家庭科における授業改善のための具体的な取り組み

〈技術分野〉

第1学年：小学校の学習内容の復習を兼ねた基礎・基本の習得に重点を置いた題材を選んだ。作品の制作において、見通しを持ち、各工程に必要な材料や工具などを自ら考える力を養う。それらを通して実生活においても、見通しを持てるようにする。

授業中に話し合い活動を多く増やし、対話する時間を増やした。班で話し合い、班長が発表することで発表が苦手な生徒も意見を出しやすい環境づくりに努めた。

第2学年：日常生活に關係のある題材を取り上げ、それをいかに生活の中で生かしていくかを考えながら基礎・基本の定着を目指す。特にエネルギー変換では、電気についての基本知識や利便性に触れると共に、感電・漏電など、身の安全にかかわる分野を充実させる。栽培分野では、実際に作物を育てることで体験的な学習を意識する。水やりなど日頃の世話の重要性に気づかせる。情報分野では、情報を安全に取り扱うと共に、犯罪に巻き込まれないための知識と共に、加害者にならないよう情報モラルに対する意識を高める。情報化社会に適応できるようにコンピュータ利用についての基礎・基本を習得させ、社会に通用する技能を身につけさせる。

実際にChatGPTなどを使い、その利点と欠点をしっかりと理解し、情報リテラシーを高める。

第3学年：情報を安全に取り扱うと共に、犯罪に巻き込まれないための知識と共に、加害者にならないよう意識を高める。特に、著作権や肖像権などに重点を置く。情報化社会で適応し、応用できるようコンピュータの基礎・基本を習得させる。特に、プレゼンテーション用ソフト（Power Point）を用いたプレゼンテーションの実習を行い、高度なプレゼン力を身につけさせたい。また、プログラミングでは双方向性のあるコンテンツを用いる。

〈家庭分野〉

第1学年：小学校の内容をフィードバックしながら、繰り返し学習することにより、基礎・基本の定着を図り、実習を通して楽しさや達成感を味わわせる。また、ICT機器を積極的に活用しながら知識、技能の習得につなげる。食生活の自立のために、中学生や家族の食生活、環境問題に関する課題を見つけ、問題解決する力を身につけさせる。

第2学年：衣生活・住生活の自立のために、実生活や既習内容をフィードバックしながら、自分自身および

家族の課題を見つけさせる。浴衣の着装の授業を行い、日本の伝統文化に直接触れる機会を。また、作品製作を通して技能を習得させ、ものづくりの楽しさや達成感を味わわせる。目的に合わせて一斉指導と個別指導を行い、進度の遅い生徒に対しては教え合い学習を積極的に行い、教えることによる技能習得の定着も図る。

第3学年：幼児に関する様々な課題について家族や家庭、地域、社会とのかかわりを考え、積極的に解決しようとする力を育てる。また、作品製作を通して、幼児とのかかわり方や幼児の発達についての基礎基本をふり返えらせ、学習内容の定着を図る。3年間のまとめとして、これから持続可能な社会を展望し、自らの力でよりよい生活を創造しようとする態度、生きる力を身につけさせる。